

業務上過失致死傷容疑 JR西日本社長ら10人書類送検

9月8日、108人が死亡（事故後の自殺者を含む）し、562人が負傷したJR福知山線脱線事故において、安全対策を怠ったとして、JR西日本山崎社長ら10人が業務上過失致死傷容疑で書類送検されました。

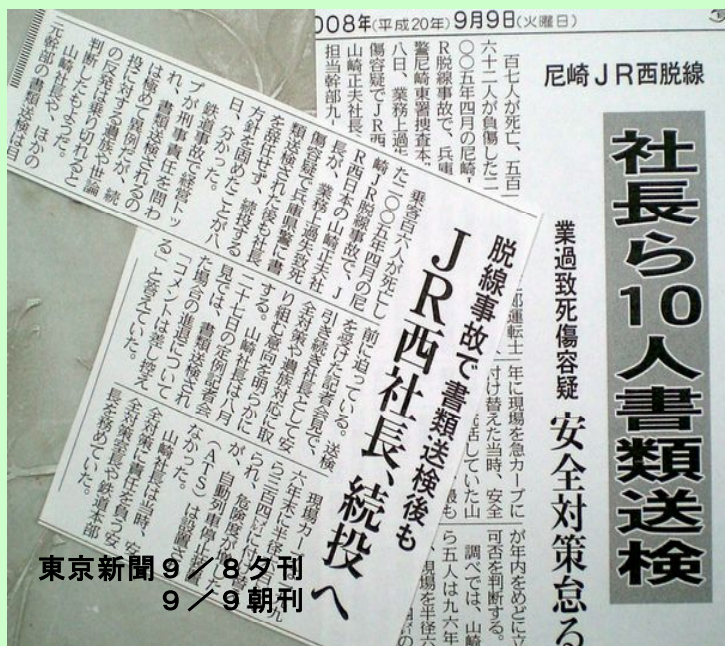
山崎社長は送検を受け「安全対策の充実、企業風土の改革に取り組む」と言っていますが、多くの犠牲者を出したことに對して、本当に反省しているのでしょうか。

実際の職場では、「事故」が発生したことに関して、今まで以上に社員への責任転嫁の姿勢があらわれています。その一つの例として、JR西日本のある職場に貼り出された区長掲示を紹介します。

区長曰く、『「JR西日本の社員は、細かいことに管理者がいちいち口を出したり、叱らなくてもやるべきことをしつかりやれなるといふ、一人ひとりの社員を大人として遇する」…「叱らなければ出来ないというのでは、子どもと同じです。今この時期には大人扱いですか、子ども扱いされるかを判断される大切な時期なのです。』と掲示で「訓示」しています。

皆さん、このような掲示をどう思うのでしょうか。経営者・管理者として発生した事故原因を究明し、事故撲滅を目指すのではなく、社員のモラルや自覚、資質の問題に替えて責任逃れをしようとするのはありませんか。モラル、自覚などは押しつけられるものではありませぬ。労務管理強化と精神論からの安全確立が大事故の背後要諦となつた姿をどうか言え管理より貼るの詭ろす事れ山「く

し戻惨さ！それを
に大返！これを
減道、りだ！そ
加たは繰とそれ
いかともうはら
もつたいはら
詭ろす事れ山「く



山崎社長、書類送検されてなお続投！